

# 日興ブラックロック・ ハイ・クオリティ・ アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし/年2回決算型) 【償還 運用報告書(全体版)】

(2023年12月27日から2024年6月26日まで)

第 18 期

償還日 2024年6月26日

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。ここに当期の運用状況等をご報告いたします。

皆さまのご愛顧ありがとうございました。

## ■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/資産複合
信託期間	2015年9月25日から2024年6月26日まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2) 世界各国の株式や債券など マネー・マーケット・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産への分散投資により信託財産の中長期的な成長を目指します。 ■実質的な運用は、マルチアセット運用に精通したブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シーが行います。 ■米ドル建ての組入れ外国投資信託証券に対し、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
組入制限	■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	■年2回(原則として毎年6月および12月の26日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みません)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

## 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1  
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976  
受付時間:午前9時~午後5時(土、日、祝・休日を除く)

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ■最近5期の運用実績

決算期	基準価額			公社債 組入比率	投資信託 証券組入 比率	純資産 総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
14期(2022年6月27日)	9,997	0	△ 0.0	0.0	79.9	3,052
15期(2022年12月26日)	9,767	0	△ 2.3	0.0	82.6	3,007
16期(2023年6月26日)	10,000	1,151	14.2	0.0	79.7	2,935
17期(2023年12月26日)	10,000	350	3.5	0.0	81.0	3,111
(償還日)	(償還価額)					
18期(2024年6月26日)	11,554.22	0	15.5	—	—	2,392

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## ■当期中の基準価額と市況等の推移

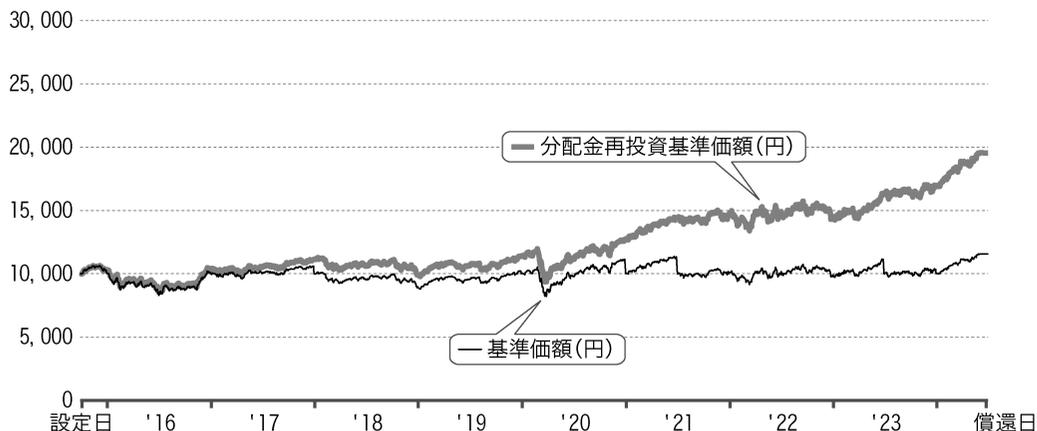
年月日	基準価額		公社債 組入比率	投資信託 証券組入 比率
		騰落率		
(期首)	円	%	%	%
2023年12月26日	10,000	—	0.0	81.0
12月末	10,034	0.3	0.0	81.5
2024年1月末	10,423	4.2	0.0	95.3
2月末	10,796	8.0	0.0	94.9
3月末	11,149	11.5	0.0	91.2
4月末	11,244	12.4	0.0	95.8
5月末	11,568	15.7	0.0	—
(償還日)	(償還価額)			
2024年6月26日	11,554.22	15.5	—	—

※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

設定以来の運用状況（設定日（2015年9月25日）から償還日（2024年6月26日）まで）

設定以来の基準価額の推移



前期までの概略（設定日（2015年9月25日）から第17期末（2023年12月26日）まで）

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産へ分散投資を行いました。実質組入外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

なお、運用指図に関する権限の一部をブラックロック・ジャパン株式会社に委託しています。

上昇要因

- ・2016年～2018年、世界経済の成長、企業収益の改善などを受けて株式市場が上昇したこと
- ・2020年後半～2021年、パンデミック対策としての大規模な財政・金融刺激策により、株式市場が急速に回復したこと
- ・2021年～2023年にかけて、米国の大幅利上げなどを背景に大幅な米ドル高・円安が進行したこと

下落要因

- ・2020年前半、新型コロナウイルスの感染拡大により投資家心理が大きく悪化し、株式市場が下落したこと
- ・2022年前半、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始したことで、ヨーロッパの安全保障情勢が急激に悪化し、地政学リスクが大幅に増大したことから、株式市場が下落したこと

# 1 運用経過

基準価額等の推移について（2023年12月27日から2024年6月26日まで）

## 基準価額等の推移



期 首	10,000円
償 還 日	11,554円22銭
騰 落 率	+15.5%

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

### 基準価額の主な変動要因（2023年12月27日から2024年6月26日まで）

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産へ分散投資を行いました。実質組入外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

なお、運用指図に関する権限の一部をブラックロック・ジャパン株式会社に委託しています。

#### 上昇要因

- 景気見通しの改善などを背景に、株式が上昇したこと
- 日米の金融政策格差から米ドル高・円安が進行したこと

#### 下落要因

- 中央銀行の利下げに対する市場の織り込みが剥落し、金利が上昇（債券価格が下落）したこと

投資環境について（2023年12月27日から2024年6月26日まで）

世界の株式市場は上昇し、債券市場は下落しました。為替市場では米ドルが円に対して上昇しました。

### 株式市場

世界の株式市場は、上昇しました。F R B（米連邦準備制度理事会）をはじめとする中央銀行の利下げ開始が想定されたことや、経済ファンダメンタルズ（基礎的条件）は底堅く、景気見通しが改善したことから、株式市場は上昇しました。

### 債券市場

世界の債券市場は、インフレが高止まりしたことから、中央銀行の利下げに対する市場の織り込みが剥落し、軟調に推移しました。一方、社債市場ではクレジットスプレッド

（国債に対する上乗せ金利）が縮小し、金利上昇によるマイナスの影響を一部相殺しました。

### 為替市場

期初と比較して期末の円相場は、米ドルに対して円安となりました。F R Bが引き続き高い政策金利を維持していた中で、日本銀行は2024年3月にマイナス金利政策の解除やイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）政策の撤廃を決定しましたが、その後も緩和的な金融政策を当面継続する考えを示したことなどから、米ドルは円に対して上昇し、160円台で期末を迎えました。

ポートフォリオについて（2023年12月27日から2024年6月26日まで）

### 当ファンド

期初より「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX 2）」の組入れを高位に保ちました。

その後、償還を控えて安定運用に移行しま

した。

### ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX 2）

市場環境の変化に予防的に対応する方針の下、株式、債券、現金などの各資産クラスの

配分を機動的に変更しました。

株式については、期中にわたり株式への配分を高位に維持しました。米国では、セクターによっては魅力的な銘柄が残されていると考え、例えばAIの発展にけん引されると考える情報セクターについては、収益率の高さから選好しています。また、エネルギーセクターは、商品価格の高騰や高インフレ、バリュエーション（投資価値評価）の割安さ、そしてインフレ及び地政学リスクに対するヘッジとしての役割など、複数の要因が支えることとみて選好しています。日本については、金融政策が依然として緩和的であり、経済成長が好調であることを見ると、コーポレート・ガバナンス（企業統治）や企業業績の改善なども株価の下支え要因になると考え、恩恵をうける可能性のある内需関連銘柄のポジションを増加させました。

債券については配分を少し引き下げ、デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）については米国の経済指標が底堅く、利下げの回数や幅の見通しが減少する中で、短期化しました。

商品ポートフォリオについては、リスク資

産に対するヘッジ効果は薄れていると考えており、配分を低位に維持した後、5月末時点で非保有としました。

### ●株式

期初の64%程度から、米国経済は底堅さを維持している中、株式への高位の配分を維持し、期末時点では68%程度としました。

### ●債券

期初の32%程度から、金利上昇に対応すべく機動的に配分を引き下げ、期末には28%程度としました。

### ●現金等

魅力度が高まっていると考える株式や債券の配分を高めており、期初の3.3%から期末には4.7%と低位の保有比率を継続しました。

---

## マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

#### ベンチマークとの差異について（2023年12月27日から2024年6月26日まで）

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

#### 分配金について（2023年12月27日から2024年6月26日まで）

償還のため、該当事項はございません。

## 2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。

## 3 お知らせ

#### 約款変更について

該当事項はございません。

1万口当たりの費用明細（2023年12月27日から2024年6月26日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	113円	1.034%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は10,951円です。
（投信会社）	(63)	(0.577)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
（販売会社）	(48)	(0.440)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.016)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の発行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
（株式）	(－)	(－)	売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
（株式）	(－)	(－)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（公社債）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(d) その他費用	0	0.003	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.003)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(－)	(－)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
（その他）	(0)	(0.000)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	114	1.037	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

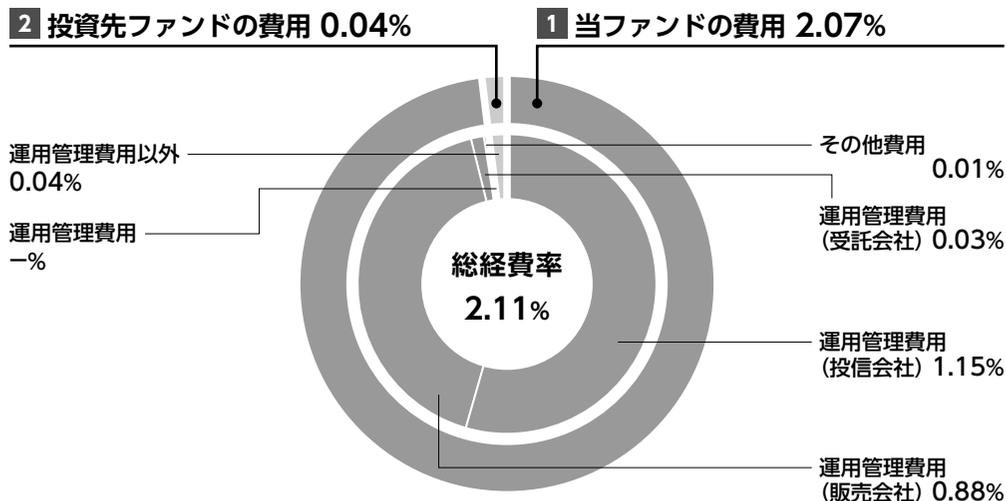
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



## 参考情報 総経費率(年率換算)



総経費率(1 + 2)		2.11%
1	当ファンドの費用の比率	2.07%
2	投資先ファンドの運用管理費用の比率	—%
	投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.04%

※ 1の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※ 2の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、シェアクラスの経費率です。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を、目論見書に記載している料率にもとづき区別しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。ただし、投資先ファンドでの運用管理費用は、当ファンドの運用委託報酬の中から負担しているため、開示すべき運用管理費用はありません。

※ 1と2の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※ 上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は2.11%です。

■ 当期中の売買及び取引の状況（2023年12月27日から2024年6月26日まで）

(1) 投資信託証券

			買 付		売 付	
			口 数	買 付 額	口 数	売 付 額
外国	ア メ リ カ	ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）	42,540	千アメリカ・ドル 4,106	228,188	千アメリカ・ドル 23,135

※金額は受渡し代金。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
マネー・マーケット・マザーファンド	千口 -	千円 -	千口 1,187	千円 1,185

■ 利害関係人との取引状況等（2023年12月27日から2024年6月26日まで）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

（2023年12月27日から2024年6月26日まで）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細（2024年6月26日現在）

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた外貨建ファンドの明細

ファ ン ド 名	期首(前期末)	期 末			組入比率
	口 数	口 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(ルクセンブルグ) ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）	口 185,648.09	口 -	千アメリカ・ドル -	千円 -	% -
合 計	185,648.09	-	-	-	-

※邦貨換算金額は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(2)親投資信託残高

種 類	期首(前期末)	期	末
	口 数	口 数	評 価 額
マネー・マーケット・マザーファンド	千口 1,187	千口 -	千円 -

■ 投資信託財産の構成

(2024年6月26日現在)

項 目	期	末
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 2,485,331	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	2,485,331	100.0

■ 資産、負債、元本及び償還価額の状況

(2024年6月26日現在)

項 目	償 還 時
(A) 資 産	2,485,331,056円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	2,485,327,473
未 収 利 息	3,583
(B) 負 債	93,068,708
未 払 解 約 金	60,471,195
未 払 信 託 報 酬	32,597,513
(C) 純 資 産 総 額 ( A - B )	2,392,262,348
元 本	2,070,465,819
償 還 差 損 益 金	321,796,529
(D) 受 益 権 総 口 数	2,070,465,819口
1 万 口 当 た り 償 還 価 額 ( C / D )	11,554円22銭

※当期における期首元本額3,110,925,238円、期中追加設定元本額15,922,829円、期中一部解約元本額1,056,382,248円です。

※上記表中の償還差損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり償還価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2023年12月27日 至2024年6月26日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	1,280,099円
受 取 利 息	1,300,564
支 払 利 息	△ 20,465
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	352,948,345
売 買 益	371,636,971
売 買 損	△ 18,688,626
(C) 信 託 報 酬 等	△ 32,712,157
(D) 当 期 損 益 金 ( A + B + C )	321,516,287
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	26,257,167
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 25,976,925
( 配 当 等 相 当 額 )	( 65,518,603 )
( 売 買 損 益 相 当 額 )	( △ 91,495,528 )
(G) 合 計 ( D + E + F )	321,796,529
償 還 差 損 益 金 ( G )	321,796,529

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用として、信託報酬の中から支弁している額は10,018,096円です。

## ■ 投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2015年9月25日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2024年6月26日		資産総額	2,485,331,056円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減又は追加信託	負債総額	93,068,708円
受益権口数	200,000口	2,070,465,819口	2,070,265,819口	純資産総額	2,392,262,348円
元本額	200,000円	2,070,465,819円	2,070,265,819円	受益権口数	2,070,465,819口
				1万口当たり償還金	11,554円22銭
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
	円	円	円	円	%
第1期	1,992,902,332	1,993,075,066	10,001	267	2.67
第2期	7,287,606,388	6,154,351,897	8,445	0	0.00
第3期	5,203,365,103	5,203,457,307	10,000	76	0.76
第4期	3,628,138,684	3,628,159,514	10,000	142	1.42
第5期	5,440,583,474	5,440,845,911	10,000	609	6.09
第6期	7,955,774,238	7,577,167,460	9,524	0	0.00
第7期	9,743,398,643	8,711,270,016	8,941	0	0.00
第8期	10,342,300,092	9,876,071,421	9,549	0	0.00
第9期	8,659,945,964	8,660,170,402	10,000	235	2.35
第10期	7,164,971,336	7,000,187,015	9,770	0	0.00
第11期	4,149,315,370	4,149,157,869	10,000	1,149	11.49
第12期	3,424,172,376	3,424,235,393	10,000	1,342	13.42
第13期	3,299,064,814	3,299,169,703	10,000	169	1.69
第14期	3,053,069,922	3,052,096,456	9,997	0	0.00
第15期	3,079,250,461	3,007,468,096	9,767	0	0.00
第16期	2,935,670,049	2,935,621,539	10,000	1,151	11.51
第17期	3,110,925,238	3,111,049,403	10,000	350	3.50

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

## ■ 組入れ投資信託証券の内容

### 投資信託証券の概要

ファンド名	ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）
形態	ルクセンブルグ籍会社型投資信託（米ドル建て）
主要投資対象	世界各国の株式や債券など
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>● トータル・リターンを最大化することを目指します。</li> <li>● ファンドは、世界の株式、債券および短期証券に投資します。通常の市況では、純資産の70%以上を国や企業が発行する有価証券に投資します。</li> <li>● ファンドは、割安と判断される有価証券へ投資します。ファンドは、小規模企業および新興国の成長企業の株式に、また債券の投資部分においてはハイ・イールド債券にも投資することができます。</li> <li>● 通貨エクスポージャーについては柔軟に運用します。</li> </ul>
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 有価証券の空売りは行いません。</li> <li>● 純資産総額の10%を超える借入れは行いません。</li> <li>● 同一発行体の有価証券等への投資割合は、純資産総額の10%以内とします。</li> <li>● 非流動性資産への投資割合は、純資産総額の10%以下とします。</li> </ul>
分配方針	分配を行いません。
運用管理費用	<p>運用報酬はありません。</p> <p>※管理および保管に要する費用などがかかりますが、これらはファンドの運用状況等により変動するものであり、事前に料率等を示すことができません。</p>
その他の費用	<p>ルクセンブルグの年次税（年0.01%）、ファンドの設立費用、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。</p> <p>これらは、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>
申込手数料	ありません。
スイング・プライス	ファンドの買付け、売却がポートフォリオに重要な影響を与えると考えられる場合、予想される取引スプレッド、コスト、その他の要因を考慮して、その売買価格が調整されることがあります。
投資顧問会社	ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シー
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）」をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド」の情報を委託会社において抜粋、要約して翻訳したものを記載しています。

■ 損益及び純資産変動計算書 (2023年8月31日に終了した期間)

(単位：米ドル)

期首純資産	15,096,811,718
収益	
現金及び現金同等物に係る受取利息	7,871,309
債券利息（源泉税控除後）	259,728,067
スワップ利息	33,911,443
差金決済取引（金利）	6,085,802
短期金融市場預託金利息	9,485,987
集団投資スキーム収益（源泉税控除後）	244,153
配当金（源泉税控除後）	132,026,774
差金決済取引（配当）（源泉税控除後）	21,162
有価証券貸付収益	3,580,255
管理報酬リベート	27,921
その他払い戻し	60,690
収益合計	453,043,563
費用	
スワップ利息	20,617,760
差金決済取引（配当）（源泉税控除後）	4,527,005
年間サービス料	26,727,093
貸付委託費用	45,211
保管および預託報酬	1,794,818
販売報酬	14,088,725
税金	6,379,364
管理報酬	181,432,387
費用合計	255,612,363
純損益	197,431,200
以下に係る実現純損益：	
投資有価証券	(32,087,780)
TBA証券取引契約	(19,687,135)
差金決済取引	(25,171,502)
上場先物取引	(66,106,311)
オプション／スワップション契約	68,578,153
スワップ取引	(129,249,995)
為替先渡取引	1,249,433
その他の取引に係る外国通貨	14,730,566
当期実現純損益	(187,744,571)

## 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし／年2回決算型）

以下に係る未実現損益の純変動額：

投資有価証券	708,298,430
TBA証券取引契約	1,164,722
差金決済取引	(1,568,236)
上場先物取引	32,457,417
オプション／スワップション契約	7,951,698
スワップ取引	38,830,171
為替先渡取引	53,364,185
その他の取引に係る外国通貨	1,598,251
当期末実現損益の純変動額	842,096,638
運用による純資産の増減額	851,783,267
資本の変動	
投資証券発行による正味受取額	1,844,669,591
投資証券買戻しによる正味支払額	(3,309,238,264)
資本の変動による純資産の増減額	(1,464,568,673)
配当金宣言額	(28,749,416)
期末純資産	14,455,276,896

### ■ 組入上位銘柄(基準日：2023年8月31日)

銘柄名	組入比率
GERMANY (FEDERAL REPUBLIC OF) 1.7 08/15/2032	2.6%
MICROSOFT CORP	2.4%
TREASURY NOTE 4.125 07/31/2028	2.0%
GERMANY (FEDERAL REPUBLIC OF) 2.3 02/15/2033	2.0%
APPLE INC	1.9%
ALPHABET INC CLASS C	1.7%
TREASURY (CPI) NOTE 0.625 01/15/2024	1.6%
TREASURY NOTE 4 06/30/2028	1.5%
SPAIN (KINGDOM OF) 2.55 10/31/2032	1.4%
AMAZON COM INC	1.3%

※比率は純資産総額に対する割合です。

# マネー・マーケット・マザーファンド

第13期 (2023年3月2日から2024年3月1日まで)

信託期間	無期限 (設定日: 2011年5月31日)
運用方針	主として、円貨建の短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額		公社債 組入比率	純資産 総額
		期中 騰落率		
	円	%	%	百万円
9期 (2020年3月2日)	10,013	△0.1	80.6	77
10期 (2021年3月1日)	10,002	△0.1	75.9	76
11期 (2022年3月1日)	9,994	△0.1	76.0	76
12期 (2023年3月1日)	9,991	△0.0	74.7	76
13期 (2024年3月1日)	9,986	△0.1	74.7	76

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

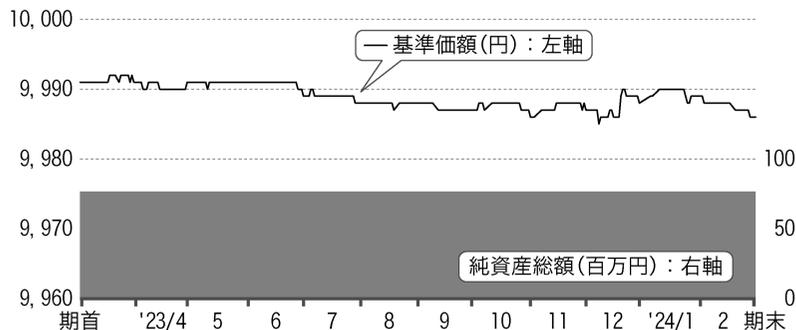
年月日	基準価額		公社債 組入比率
		騰落率	
(期首) 2023年3月1日	円	%	%
3月末	9,991	—	74.7
4月末	9,991	0.0	74.7
5月末	9,991	0.0	74.8
6月末	9,991	0.0	74.7
7月末	9,989	△0.0	74.8
8月末	9,988	△0.0	74.8
9月末	9,988	△0.0	74.7
10月末	9,987	△0.0	74.8
11月末	9,986	△0.1	74.7
12月末	9,987	△0.0	74.7
2024年1月末	9,988	△0.0	74.7
2月末	9,989	△0.0	74.7
(期末) 2024年3月1日	9,986	△0.1	74.7

※騰落率は期首比です。

## 1 運用経過

### ▶ 基準価額等の推移について (2023年3月2日から2024年3月1日まで)

#### 基準価額等の推移



期首	9,991円
期末	9,986円
騰落率	-0.1%

### ▶ 基準価額の変動要因 (2023年3月2日から2024年3月1日まで)

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

#### 下落要因

・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

### ▶ 投資環境について (2023年3月2日から2024年3月1日まで)

短期金利は上昇しました。

世界的に高水準のインフレが続いたことや、欧米中央銀行による利上げの継続を背景に円安が進行したことから、国内でも物価上昇率が高止まりし、CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）は前年比+2%以上での推移となりました。この間、日銀は市場機能への配慮や物価上振れリスクへの対応として、長期金利（10年国債利回り）の許容変動幅の事実上の上限引き上げを行うなど、イールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の運用を柔軟化しました。しかし、日

銀は賃金上昇を伴う形での物価目標の達成を目指すために、イールドカーブ・コントロールの枠組みは維持し、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、欧米での金融不安の影響でリスク回避の動きが強まった2023年3月や、年末越え運用ニーズが高まった10月に、一時的に大きく低下する局面もありましたが、期を通じて概ねレンジ推移となりました。

---

### ▶ ポートフォリオについて (2023年3月2日から2024年3月1日まで)

---

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しの下、残存0年から1年3ヵ月までの円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

---

### ▶ ベンチマークとの差異について (2023年3月2日から2024年3月1日まで)

---

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

## 2 今後の運用方針

国内景気は足踏みしているものの、先行きはインフレ鈍化や賃金上昇が内需のサポートとなり、緩やかな回復基調に戻る見通しです。CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は、政策効果によって+2%台に低下しており、先行きも輸入物価を起点とするコストプッシュ圧力の弱まりにより緩やかに減速基調が続く見通しです。日銀は賃金、物価上昇の好循環への確度が高まったタイミングでの政策変更を示唆しており、春闘の大勢が判明する春先に、マイナス金利解除を中心とした政策変更を実施する見込みです。

マイナス金利政策が解除されれば、短期国債利回りやコールローン（金融機関同士のごく短期の資金の貸借）翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りがプラスに転じると予想します。

マイナス利回りが継続する間は、引き続き、残存0年から1年3ヵ月までの公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。また、プラス利回りに転じた際には、利子等の安定した収益の確保を目指して運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	1円 (1)	0.006% (0.006)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	1	0.006	

期中の平均基準価額は9,989円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

公社債

		買付額	売付額
国内		千円	千円
	国債証券	29,128	— (14,000)
	特殊債証券	28,193	— (43,000)

※金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※( )内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況  
(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2024年3月1日現在)

公社債

A 債券種類別開示

国内(邦貨建)公社債

区 分	期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組入比率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国 債 証 券	29,000 (-)	29,077 (-)	38.0 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	38.0 (-)
特 殊 債 券 (除く金融債券)	28,000 (28,000)	28,058 (28,058)	36.7 (36.7)	- (-)	- (-)	- (-)	36.7 (36.7)
合 計	57,000 (28,000)	57,135 (28,058)	74.7 (36.7)	- (-)	- (-)	- (-)	74.7 (36.7)

※(-)内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

B 個別銘柄開示

国内(邦貨建)公社債

種 類	銘 柄	期 末			
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償還年月日
国 債 証 券	335 10年国債	%	千円	千円	
	337 10年国債	0.5000	15,000	15,045	2024/09/20
		0.3000	14,000	14,031	2024/12/20
	小 計	-	29,000	29,077	-
特 殊 債 券 (除く金融債券)	215 政保道路機構	0.6690	14,000	14,020	2024/04/30
	3 政保新関西空港	0.6440	14,000	14,038	2024/06/26
	小 計	-	28,000	28,058	-
	合 計	-	57,000	57,135	-

■ 投資信託財産の構成

(2024年3月1日現在)

項 目	期	末
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円	%
	57,135	74.7
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	19,387	25.3
投 資 信 託 財 産 総 額	76,523	100.0

## ■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2024年3月1日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	76,523,750円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	19,326,840
公 社 債 ( 評 価 額 )	57,135,822
未 収 利 息	58,508
前 払 費 用	2,580
(B) 負 債	258
そ の 他 未 払 費 用	258
(C) 純 資 産 総 額 ( A - B )	76,523,492
元 本	76,632,575
次 期 繰 越 損 益 金	△ 109,083
(D) 受 益 権 総 口 数	76,632,575口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 ( C / D )	9,986円

※当期における期首元本額76,632,575円、期中追加設定元本額0円、期中一部解約元本額0円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

高成長インド・中型株式ファンド	17,711,132円
アジア好利回りリート・ファンド	99,971円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型)	7,742,960円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジなし/年1回決算型)	1,337,053円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジあり/3カ月決算型)	4,909,194円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジなし/3カ月決算型)	1,456,790円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし)	14,208,735円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (原定為替ヘッジ)	1,237,272円
三井住友・ニュー・アジア・ファンド	369,177円
アジア好利回りリート・ファンド (年1回決算型)	997円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし/年2回決算型)	1,187,376円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (原定為替ヘッジ/年2回決算型)	389,132円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルCBファンド (為替ヘッジあり)	289,352円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルCBファンド (為替ヘッジなし)	419,066円
グローバル自動運転関連株式ファンド (為替ヘッジあり)	4,140,881円
グローバル自動運転関連株式ファンド (為替ヘッジなし)	11,065,647円
グローイング・フロンティア株式ファンド	2,185,185円
高成長インド・中型株式ファンド (年1回決算型)	7,882,655円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ お知らせ

### <約款変更について>

・デリバティブ取引の利用目的を明確化するため、信託約款に所要の変更を行いました。

(適用日：2023年11月22日)

## ■ 損益の状況

(自2023年3月2日 至2024年3月1日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	359,798円
受 取 利 息	368,517
支 払 利 息	△ 8,719
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△393,040
売	△393,040
買	
(C) そ の 他 費 用 等	△ 4,707
(D) 当 期 損 益 金 ( A + B + C )	△ 37,949
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 71,134
(F) 合 計 ( D + E )	△109,083
次 期 繰 越 損 益 金 ( F )	△109,083

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。